試験対策（仕訳問題）

日商簿記3級の第1問は、仕訳形式の問題が5問出題されます。勘定科目の候補が与えられますので、その中から適切な勘定科目を選び、仕訳を解答します。与えられた勘定科目以外で解答した場合は、正解となりませんので注意して下さい。

仕訳問題は今まで学習してきた仕訳を解答すれば良いのですが、特に、複数の論点が問われる問題が間違いやすいので注意して下さい。

例題　**下記の取引について仕訳を行いなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。**

仮払消費税	未払消費税	売上	仕入
備品	未払金	未払家賃	受取家賃
支払家賃	前受金	繰越商品	現金
未収入金	仮受消費税	売掛金	買掛金
仮払金	損益	前受家賃	未収家賃
預り金	建物	立替金	前払金
仮受金	商品	当座預金	繰越利益剰余金

①　前期の決算で計上した前受家賃1,000円について、当期首に再振替仕訳を行う。

②　本日、新潟商店に対する売掛金59,000円および買掛金69,000円の決済日につき、新潟商店の承諾を得て両者を相殺処理するとともに、買掛金の超過額10,000円は小切手を振り出して支払った。

③　備品99,000円を購入し、代金は全額、翌月末に支払うこととした。この購入に伴い発生した運送費600円と据付費300円は現金で支払った。

④　出張中の店員から40,000円の入金があったが、その詳細は不明であった。ここで、当該金額が商品代金の手付金であることが判明した。

⑤　以前に掛け販売した商品（仕入原価：税抜金額1,000円、税込金額1,100円）が返品され、掛け代金（売価：税抜金額1,300円、税込金額1,430円）を減額した。

① 再振替仕訳

前期の決算整理仕訳は以下のとおりです。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取家賃	1,000	前受家賃	1,000

したがって、当期の再振替仕訳は反対仕訳となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
前受家賃	**1,000**	**受取家賃**	**1,000**

② 売掛金と買掛金の相殺

取引先に対して、売掛金と買掛金が同時に存在する場合には、両者を相殺処理する場合があります。その場合、「売掛金」勘定（資産）の減少と「買掛金」（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**69,000**	**売掛金**	**59,000**
		当座預金	**10,000**

なお、上記仕訳は以下のように分解して考えても良いでしょう。

・売掛金と買掛金の相殺

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	59,000	売掛金	59,000

・買掛金の残額の支払

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	10,000	当座預金	10,000

③ 備品を購入する際に発生した運搬費および据付費は、備品の取得原価に含める処理を行います。また、商品以外のものを購入し、代金は未払の場合、「未払金」勘定（負債）で処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品	**99,900**	**未払金**	**99,000**
		現金	**900**

④　入金時に以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　　金	40,000	仮　受　金	40,000

したがって、内容が判明したときは「仮受金」勘定（負債）から「前受金」勘定（負債）に振り替えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仮　受　金	**40,000**	**前　受　金**	**40,000**

⑤　販売時に以下の仕訳を行っています。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売　掛　金	1,430	売　　　　上	1,300
		仮受消費税	130

売上戻りは、売上時の仕訳の取り消しとなりますので、逆仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売　　　　上	**1,300**	**売　掛　金**	**1,430**
仮受消費税	**130**		

試験対策（勘定記入）

勘定記入の問題は第2問か第4問に出題されることがあります。必要な仕訳を行い、それを各勘定に記入して解答します。特に、摘要欄の記入に注意して下さい。

例題　**毎年7月1日に向こう１年分の支払家賃1,200円を現金で支払っている。そこで支払家賃勘定と前払家賃勘定の記入を行いなさい。なお、決算日は3月31日である。**

まず、当期において行われる仕訳を考えます。

①　期首（4月1日、再振替仕訳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払家賃	**300**	**前払家賃**	**300**

前払家賃：1,200÷12ヶ月×３ヶ月(4月～6月分)＝300

②　家賃支払時（7月1日）

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払家賃	**1,200**	**現金**	**1,200**

③　決算整理（3月31日）

借方科目	金額	貸方科目	金額
前払家賃	**300**	**支払家賃**	**300**

④　決算振替（3月31日）

借方科目	金額	貸方科目	金額
損益	**1,200**	**支払家賃**	**1,200**

次に、仕訳をもとに勘定へ転記します。なお、前払家賃の残高は仕訳からの転記でなく、「前期繰越」「次期繰越」と記入して繰り越されることに注意して下さい。

支払家賃

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
4	1	前払家賃	省	300	3	31	前払家賃	省	300
7	1	現金	略	1,200		〃	損益	略	1,200
				1,500					1,500

前払家賃

日付		摘要	仕丁	借方	日付		摘要	仕丁	貸方
4	1	前期繰越	省	300	4	1	支払家賃	省	300
3	31	支払家賃	略	300	3	31	次期繰越	略	300
				600					600

試験対策（補助簿）

補助簿に関する問題は主に第2問で出題されます。出題形式としては、補助簿の記入・締切を行う問題、与えられた補助簿から取引を推定する問題、取引から記入すべき補助簿を選択する問題などがあります。ここでは、取引から記入すべき補助簿を選択する問題について解き方を説明します。

例題　**以下の取引にもとづいて、それぞれの取引がどの補助簿に記入されるか、解答欄に○を付しなさい。なお、当社が設定している補助簿は、現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳、売上帳、商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳である。**

①　仕入先B社から商品3,000円を仕入れ、代金のうち1,000円は約束手形を振り出し、残額は掛けとした。なお、引取費用500円は現金で支払った。

②　仕入先B社から仕入れた商品400円が品違いであったため返品し、掛け代金から差し引かれた。

③　得意先C社へ商品4,000円を売り上げ、代金のうち1,500円は約束手形を受け取り、残額は掛けとした。当社負担の運送費200円は小切手を振り出して支払った。

④　得意先C社へ売り上げた商品300円が返品され、掛け代金から差し引いた。

⑤　仕入先B社への買掛金800円の支払のために、約束手形を振り出した。

各取引について仕訳をもとに記入される補助簿を考えます。その際には、商品有高帳に注意して下さい。商品有高帳は商品の原価に関する取引が記入されますが、三分法の場合、商品の原価に関する期中取引が仕訳では「商品」や「繰越商品」勘定が使われないので漏れないように注意して下さい。

	借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
①	**仕　　入**	**3,500**	**支 払 手 形**	**1,000**
			買 掛 金	**2,000**
			現　　金	**500**

借方　仕入帳、商品有高帳（商品の原価が増加するため）

貸方　支払手形記入帳、買掛金元帳、現金出納帳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
②	**買掛金**	**400**	**仕入**	**400**

借方　買掛金元帳

貸方　仕入帳、商品有高帳（商品の原価が減少するため）

	借方科目	金額	貸方科目	金額
③	**受取手形**	**1,500**	**売上**	**4,000**
	売掛金	**2,500**		
	発送費	**200**	**当座預金**	**200**

借方　受取手形記入帳、売掛金元帳

貸方　売上帳、商品有高帳（商品の原価が減少するため）、当座預金出納帳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
④	**売上**	**300**	**売掛金**	**300**

借方　売上帳、商品有高帳（商品の原価が増加するため）

貸方　売掛金元帳

	借方科目	金額	貸方科目	金額
⑤	**買掛金**	**800**	**支払手形**	**800**

借方　買掛金元帳

貸方　支払手形記入帳

	現金出納帳	当座預金出納帳	仕入帳	売上帳	商品有高帳	売掛金元帳	買掛金元帳	受取手形記入帳	支払手形記入帳
①	○		○		○		○		○
②			○		○		○		
③		○		○	○	○		○	
④				○	○	○			
⑤							○		○

試験対策（補助簿・推定）

ここでは、買掛金勘定と買掛金元帳の空欄推定問題について解き方を説明します。

例題　**鹿島商事株式会社の、8月中の買掛金に関する取引の記録は以下のとおりである。①及び②に帳簿名、③～⑩には適切な語句または金額を答えなさい。なお、商品売買の記帳は３分法により、補助簿②に両商店以外は存在しない。**

主　要　簿

①

買　掛　金

8/ 8	(　③　)	(　　　)	8/ 1	前月繰越	280,000
15	当座預金	(　④　)	6	(　　　)	(　⑥　)
24	(　　　)	(　⑤　)	19	(　　　)	140,000
31	次月繰越	(　　　)			
		(　　　)			(　　　)

補　助　簿

②

浦和商店

8/ 8	返　　品	8,000	8/ 1	前月繰越	116,000
15	支 払 い	220,000	6	仕　　入	270,000
31	次月繰越	(　⑦　)			
		(　　　)			(　　　)

川崎商店

8/15	支 払 い	(　⑧　)	8/ 1	前月繰越	(　⑨　)
24	返　　品	3,000	19	仕　　入	(　⑩　)
31	次月繰越	125,000			
		(　　　)			(　　　)

①	総勘定元帳	②	買掛金元帳	③	仕入
④	396,000	⑤	3,000	⑥	270,000
⑦	158,000	⑧	176,000	⑨	164,000
⑩	140,000				

① 主要簿で「買掛金」勘定が設けられている帳簿は「総勘定元帳」です。

② 買掛金の明細を記録するための補助簿ですので、「買掛金元帳（又は、仕入先元帳）」です。

③ 買掛金元帳（浦和商店）8/8 返品より、返品により買掛金が減少したことがわかります。「買掛金」勘定の③は摘要欄の記入となりますので、相手勘定科目の「仕入」と記入します。「返品」は相手勘定科目ではありませんので注意してください。なお、3分法における返品時の仕訳は以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	3,000	仕入	3,000

④ 買掛金元帳（浦和商店）8/15 支払い 220,000と買掛金元帳（川崎商店）8/15 支払い⑧176,000(後述)の合計396,000となります。

⑤ 買掛金元帳（川崎商店）8/24 返品 より、3,000となります。

⑥ 買掛金元帳（浦和商店）8/6 仕入 より、270,000となります。

⑦ 買掛金元帳（浦和商店）の貸借差額より、158,000となります。

貸方(116,000＋270,000)－借方(8,000＋220,000)＝158,000

⑧ 買掛金元帳（川崎商店）の貸借差額より、176,000となります。

貸方(⑨164,000(後述)＋⑩140,000(後述))－借方(3,000＋125,000)＝176,000

⑨ 「買掛金」勘定 前月繰越280,000

－買掛金元帳（浦和商店）前月繰越116,000＝164,000

⑩ 「買掛金」勘定 8/19 より、140,000となります。

空欄を埋めた買掛金勘定と買掛金元帳は以下となります。

主　要　簿

① 総勘定元帳

買　掛　金

8/ 8	（③ 仕　入）	（　　8,000)	8/ 1	前月繰越	280,000
15	当座預金	(④ 396,000)	6	（仕　　入）	（⑥270,000)
24	（仕　　入）	(⑤　3,000)	19	（仕　　入）	140,000
31	次月繰越	（　283,000)			
		（　690,000)			（　690,000)

補　助　簿

② 買掛金元帳

浦和商店

8/ 8	返　　品	8,000	8/ 1	前月繰越	116,000
15	支 払 い	220,000	6	仕　　入	270,000
31	次月繰越	(⑦ 158,000)			
		（　386,000)			（　386,000)

川崎商店

8/15	支 払 い	(⑧ 176,000)	8/ 1	前月繰越	(⑨ 164,000)
24	返　　品	3,000	19	仕　　入	(⑩ 140,000)
31	次月繰越	125,000			
		（　304,000)			（　304,000)

試験対策（伝票・推定）

伝票は第4問に出題されることが多いです。

各伝票の記入を求める問題、与えられている伝票から取引を読み取る問題が出題されています。注意して欲しい論点は以下です。

一部現金取引は、取引を分解する方法と、取引を仮定する方法がある。

例題　**商品を1,000円で売り上げ、代金のうち300円は現金で受け取り、残額は掛けとした。なお、入金伝票の科目欄には売掛金が記入されている。そこで、3伝票制を採用している場合、振替伝票を起票しなさい。**

①　まず、取引を仕訳で考えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	300	売上	1,000
売掛金	700		

②　次に、一部現金取引なので、取引を分解する方法と取引を仮定する方法がありますが、与えられている入金伝票の記入を考えます。相手勘定科目が「売掛金」勘定なので以下の処理であることがわかります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	300	売掛金	300

③　そこで、①の仕訳になるように、訂正仕訳と同じように仕訳を考えます。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	1,000	売上	1,000

したがって、振替伝票に以下のように起票されます。

振　替　伝　票

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**1,000**	**売上**	**1,000**

例題　**商品を1,000円で売り上げ、代金のうち300円は現金で受け取り、残額は掛けとした。なお、入金伝票の科目欄には売上が記入されている。そこで、3伝票制を採用している場合、振替伝票を起票しなさい。**

①　まず、取引を仕訳で考えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	300	売　　　　　上	1,000
売　　掛　　金	700		

②　次に、一部現金取引なので、取引を分解する方法と取引を仮定する方法がありますが、与えられている入金伝票の記入を考えます。相手勘定科目が「売上」勘定なので以下の処理であることがわかります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　　金	300	売　　　　　上	300

③　そこで、①の仕訳になるように、訂正仕訳と同じように仕訳を考えます。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　掛　　金	700	売　　　　　上	700

したがって、振替伝票に以下のように起票されます。

振　替　伝　票

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　掛　　金	**700**	**売　　　　　上**	**700**